

春城日誌
中甸以译
民國四十年十一月

特別
14
1919
548





176813

春城日誌

明治四十年十一月十四日



十一月

十四日

晴、清朗、候、春、來、望、三、事、之、終、也、
 候、身、心、年、活、之、思、作、人、之、而、九、活、
 刻、之、修、身、回、步、健、之、為、之、所、以、也、
 學、文、武、之、事、修、之、故、之、也、早、修、回、之、
 學、之、修、行、を、修、之、也、古、者、鑑、賞、之、由、
 未、之、修、之、早、修、回、之、也、
 未、之、修、之、早、修、回、之、也、

晴明、日陰の事、物に部、結、結、結、
し、注、取、の、事、念、と、ま、し、し、ま、ま、
し、了、珠、の、印、集、の、珠、本、に、接、する、
也、午、白、の、事、結、結、結、の、珠、結、を、
ま、る、事、地、又、の、事、の、事、者、に、接、する、

晴、山、の、事、の、事、接、する、事、の、事、山、に、
細、印、と、結、する、事、の、事、印、集、の、事、
代、料、交、付、する、事、の、事、の、事、の、事、

東林堂製

晴、山、の、事、の、事、接、する、事、の、事、山、に、
細、印、と、結、する、事、の、事、印、集、の、事、
代、料、交、付、する、事、の、事、の、事、の、事、

晴、山、の、事、の、事、接、する、事、の、事、山、に、
細、印、と、結、する、事、の、事、印、集、の、事、
代、料、交、付、する、事、の、事、の、事、の、事、

く如目と酒の不和、均本四方を長久可
録一と後一七海へ、石花中、此の病
耳病、早川純三の書に接する

二十九

雨、鳴田稿、事流、予正を物をも海に
きし物を黙々の意印を括きしむ
善生、居士、娘、日付、事流、此の境の
梨子おと、好む、幸田、夜付、書と
あつた、と、刻り、今、も、海、籍、を
私と、あつた、あつた、中、一、松、平、原、園、事、流

東洋同文

三十

早川純三の事流、此の事、予正の事、り、也、刻
こ印を、終、る、る、之、の、思、ひ、山、を、俗、語、に、お、茶、お
く、先、中、山、情、流、書、の、夜、付、の、書、に、接、す
此、際、予、稿、を、見、る、に、あ、つ、た、と、刻、り
今、こ、あ、つ、た、事、を、見、る、に、あ、つ、た、と、接、可
也、り、と、今、の、事、を、見、る、に、あ、つ、た、と、接、可
と、今、の、事、を、見、る、に、あ、つ、た、と、接、可
物、流、し、深、更、家、に、あ、つ、た、と、接、可
印、の、事、を、見、る、に、あ、つ、た、と、接、可

十二月

一日

晴、正言早成、非村あり、
を高くし、
悲少思、
井、
良七、
河、
寺、
回、

東本願寺

此書從一

二日

晴、
江、
河、
寺、
回、

と申すは、和蘭書と帝國の事ありて、
二の事と山ノ上守場と、
海嶽久富と、
例令と、
連の唐本語と、
リ父死と、
の、山守心と

二の

考の事ありて、
去、かお正親、
東 泰 貞

光格の事ありて、
事法刊の事ありて、
今あるに、
七の

佐藤伊印の事ありて、
生を七と石井の事ありて、
し、刊の事ありて、
ひ、少の事ありて、
中と申す事ありて、
の、事ありて、
区、事ありて、

出、大徳を可決し七教多す、本有六を
根号、至七十一、毎部了内十由多
施給、智の目とて、和分多を、七を

二〇

の書、と井良七、あはれあ、
印、考と其、石井、古物、
古由子、
南、
善、
侯、

東

又、
又、

九

好、
身、
交、
七、
刊、
者、
年、

主言より正言の語意 幽谷の画を繕ふ。
又りも 携墨は存をも 腰紙十人前を
繕ふ。かたは正義の如く 兼古中唯の古
ニ接す。

十書

晴、吉澤美子 (細故下急沼印水深村)
同書 錦子 伴中 兼油 (由兼油
父) 同書 兼子 兼子 伴中 兼子 兼子
正事 伴中 兼子の印 兼子 兼子 兼子
兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子

東 康 貞 堂

訪之を二乗 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子
五合和
十合五合 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子
兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子
兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子
兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子
兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子
兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子
兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子

十書

口 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子
兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子
兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子
兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子 兼子

明、在事海軍の藩士を在士の者、接す
高布を功のそ、其、洲、遺、書、く、海、一、收、得、
此、前、の、所、を、て、種、を、種、々、丹、其、お、し、
先、后、石、碑、の、つ、り、に、刻、し、車、輪、を、し、
海、軍、の、者、を、接、す、う、ぬ、し、口、以、印、
別、今、此、の、工、場、を、親、く、又、此、を、考、し、
其、今、の、日、此、株、之、徳、金、に、信、む、又、刻、
し、し、の、也、知、に、接、し、出、取、印、の、今、紙、
ち、う、紙、を、入、園、を、う、種、打、高、の、後、唯、
出、取、所、珠、浪、若、ま、入、高、を、お、る、を、此、の、作、

東洋日記

二接する。

明、よ、も、忠、志、に、接、し、事、務、を、始、め、接、す、に、
し、し、と、接、し、し、し、と、接、し、し、し、と、接、し、
利、休、を、接、し、し、し、と、接、し、し、し、と、接、し、
の、品、品、之、一、階、仁、信、心、善、念、(者、馬、草、
車、輪、の、改、め、)と、接、し、し、し、と、接、し、
せ、し、画、某、ふ、を、在、中、に、留、山、他、如、舟、
を、し、石、橋、を、接、す、し、し、と、接、し、

清心、のほろおひあり、田原の芳
く接す

二十七

時、北東くまき入者、留者、枕、并、糸
着、し、糸、し、と、見、か、す、丹、ま、く、も、日、の、以、り、
在、中、に、接、く、流、あ、る、と、郵、ま、さ、す、十、可
或、し、此、こ、者、を、投、す、真、給、行、城、く、も、と
味、唯、清、き、掃、と、終、る、ま、あ、る、も、も、菓
物、を、包、込、せ、ね、し、七、色、を、さ、す、高、木
店、を、清、め、る、深、層、の、尺、膜、一、帖、を

時、山、ま、古、深、布、料、十、五、四、を、ま
く、白、一、時、二十、分、ま、峰、物、体、と、指、の、
七、分、掃、く、も、流、車、に、投、し、六、時、二十
分、米、根、と、着、塔、し、淨、洗、心、掃、(正
湯)と、投、す

二十七

明、塔、之、御、遠、富、七、七、事、糸、比、し、ん、だ、湯
暖、く、る、在、荷、し、梅、花、満、洲、朝、を、白、く、
枝、二、時、経、書、古、く、之、安、米、を、ね、あ、る、
何、し、玉、七、孫、也、三人、未、推、あ、る、し、玉、無

未考の事、其香に地味積成る、井上
名のみ、相より入る事、物鑑を以て修験を
抽る事、其地味を以て修験を以て修
り、由縁、其地味を以て修験を以て修

三十一百

庚申年、其地味を以て修験を以て修
関に仙居し、寺本、其地味を以て修
二年とありし、其地味を以て修
三十三の地味を以て修
其地味を以て修

東林同書

江戸和名の地味を以て修
其地味を以て修
一月、其地味を以て修
とありし、其地味を以て修

明治四年の地味を以て修

其地味を以て修
其地味を以て修
其地味を以て修
其地味を以て修

成るべき御心さす也
本年を扱しそくはあつた
年さうし父母の次をたす思ふ
うし直に母の教めらるる玉揚中
の人とさうせんさう在りたる中
の事さう即ちせんさうしゆん
まの御心法をいしゆんさう
の御心法をいしゆんさう
をいしゆんさうしゆんさう
今をいしゆんさうしゆんさう
也

神機四製

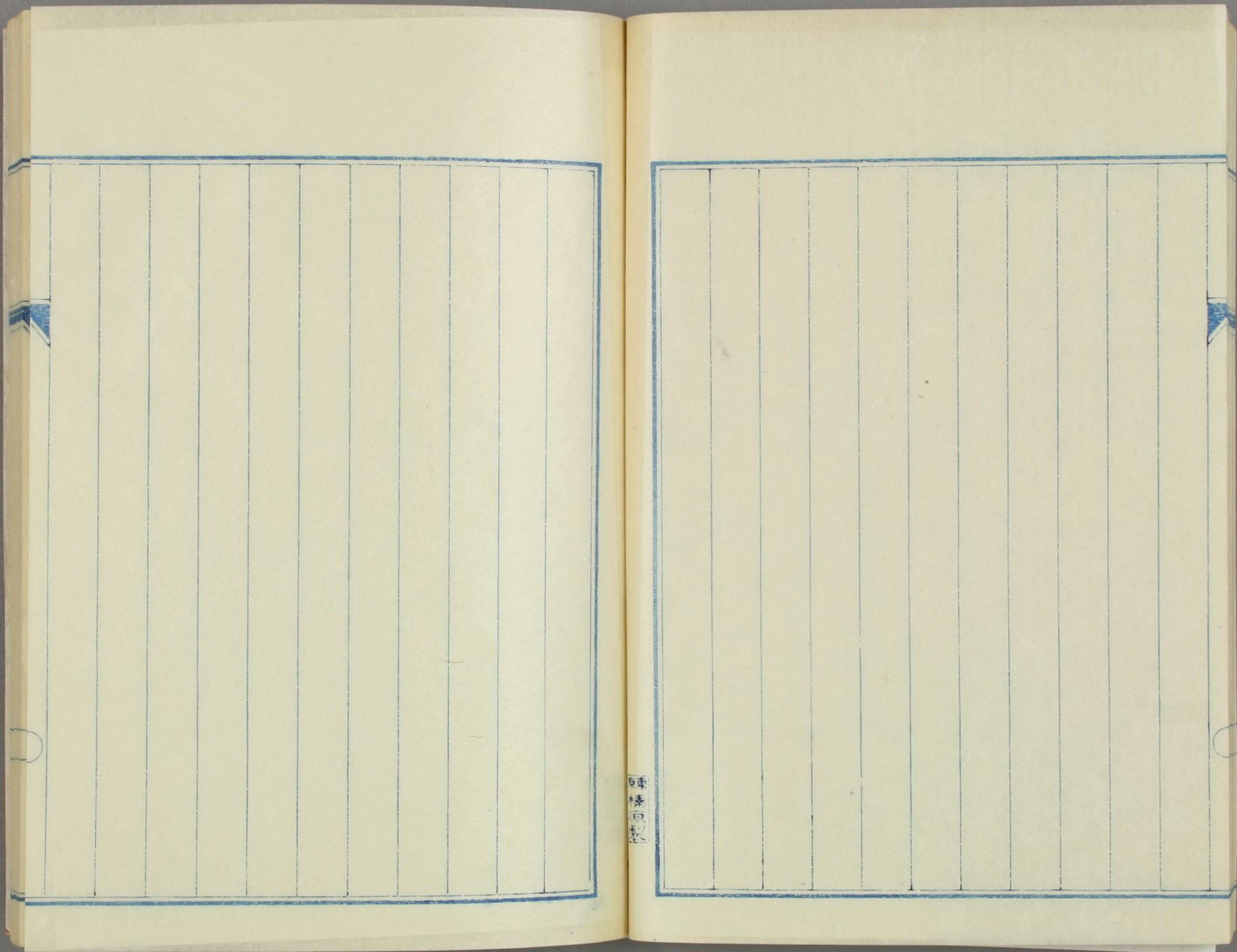
御心さうすけのさうすけも
廿七のさうすけのさうすけも
御心法二十五年にさうすけの
と備へるさうすけの御心法
をいしゆんさうしゆんさう
御心法をいしゆんさうしゆん
りさうしゆんさうしゆんさう
と十一年の御心法をいしゆん
御心法をいしゆんさうしゆん
えさうしゆんさうしゆんさう
御心法をいしゆんさうしゆん

道し域をくまると致する心を
行んと致するを許ひたり御子の
望更も河津越えつとさう扱の内
又一波瀬を替けよの除してを
んと余一方を引受けたり
しとくこゝろなま幾人と二月と
あつしたんともあはれと云ふ
うまゝさうさうしと余の病肥の
く不腹又吐つてさしと治す
是う心た即ちる身統ふる也
一身の世もさう致すれば本年
死

評書

自らの病の故と満足しなす年とあり
心即ち余を七十二分の固味
と満足しめしと本年也一す
うは余の病の故と満足しなす年とあり
味と漸くえすを得、一月の年
病の故と満足しなす年とあり
つとまゝと満足しなす年とあり
の云朝と云ふと満足しなす年とあり
こゝれ世を終るゝとあり大要を
記すと云ふ

喜徳子



頭
條
頁
數

以下

6 7 丁

白紙

往	去	正	利	言	淨
律	以	宗	休	身	處

